

COPY

(正)



(3,000)

实用新案登録願(2)機記号なし

52.4.18
昭和 年 月 日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称

ヘッドホン

2. 考案者

イオシキタキコウカウジ
 住所 大阪府八尾市北久宝寺1丁目4番33号
 ホシデンキセイソウ
 星電器製造株式会社内
 氏名 森水健一

3. 実用新案登録出願人

イオシキタキコウカウジ
 住所 大阪府八尾市北久宝寺1丁目4番33号
 ホシデンキセイソウ
 名称 星電器製造株式会社
 代表者 古橋了

4. 代理人

住所 大阪市北区神山町64番地 梅田辰巳ビル
 〒530 電話 06(312)0187
 氏名 弁理士(7233) 鈴江孝一 (ほか1名)

5. 添付書類の目録

- | | |
|-----------|----|
| (1) 明細書 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 |
| (3) 委任状 | 1通 |
| (4) 稿書副本 | 1通 |
| (5) 審査請求書 | 1通 |

方
式
審
査

52 049406

53-143627

明細書

1. 考案の名称

ヘッドポン

2. 實用新案登録請求の範囲

互にスライド自在に接合すべきヘッドバンドとスライダの曲率を異ならせるとともにその各接合面に節度中の凹凸接合部を設け、かつそのヘッドバンドおよびスライダにそれぞれスリットを穿設するとともに、上記ヘッドバンドおよびスライダの各端部にそれぞれ相手方の非接合面に係接させる舌片をスリットを通してくびれ部を介して突設し、少なくとも上記ヘッドバンドあるいはスライダのスリットの一方の端部に上記舌片の挿通を許容する巾広部を設けることによって上記ヘッドバンドとスライダを、その各舌片を相手方の非接合面に相手方のスリットを通して係接させ互にスライド自在、かつ弾性的な接合状態に組立るとともに、上記ヘッドバンドをその全長に亘って被り袋状カバーの端部を上記ヘッドカバーの舌片部に取付ける取着ピン

(1)

53-143627

を上記スライダのスリットに挿入することによってそのスライダ量を規制し、そのスライダのスライドによって上記スリットの巾広部に舌片が通しないようにしたことを特徴とするヘッドポン。

3. 考案の詳細を説明

この考案はヘッドバンドの端部にスライダを介してスピーカを取り替するようにしたヘッドポンに関するものである。

従来、この種のヘッドポンにおけるヘッドバンドとスライダの取付構造は、たとえば、図1 図に示すように、透孔12、12を設けたヘッドバンド11と長手方向にスリット14を設けた板状のスライダ13とを重ね合せるとともに、上記透孔12、12およびスリット14にガイドピン15およびボルト16をそれぞれ締通させてこのスライダ13をスライド自在にガイドし、上記ボルト16に蝶合した袋ナット17を締めつけて上記スライダ13にいわゆるスライド圧を発生させるようしている。ところが、このよう構成のものは比較

的部品点数が多く組み立てがめんどうであり、また組み立て後の上記ヘッドバンド1とスライダ3との重ね部分が比較的厚みがあるため使い勝手が悪く、しかも、ナットの締付廻合によりスライド圧が変化するので均一な性能の製品を得難いという問題がある。

この考案はこのような事情に苦心してなされたもので、部品点数が少なく組み立てが簡単であり、またヘッドバンドとスライダの重ね部分を薄型にかつ軽量にすることができ、しかも、スライド圧の揃った均一な製品を得ることが容易であり、さらにその使用に際してはスライダのスライド調節を確実かつ感触よく行なうことができるヘッドポンを提供するものである。

以下、この考案の一実施例を図面を参照して説明する。

図中1はヘッドバンド、2はスライダ、3は上記ヘッドバンド1をその全長に亘って被りカバー、4は上記スライダ2の端部に懸架されたスピーカである。

上記ヘッドバンド1は、金属板を打抜き曲げ加工して得た半円弧状のもので、その端部にはスライダ接合面1e側へ屈曲したくびれ部1aを介して舌片1bが一体に設けられないとともに、その端部から中央部方向に細長なスリット1cが穿設されており、さらに、そのスリット1cの終端部、つまりヘッドバンド1の中央部寄りの端部にこのスリット1cよりも巾広な巾広部1dが穿設されている。一方、上記スライダ2は、金属板を打抜き曲げ加工して得た、上記ヘッドバンド1よりも小さな曲率半径を有する細長な導曲板で、その一端部にはその接合面2e側へ屈曲したくびれ部2aを介して舌片2bが一体に設けかれるとともに、その一端部から他端部にかけて、細長なスリット2cが穿設されている。なお上記くびれ部2aの巾寸法は上記ヘッドバンド1のスリット1cの巾寸法よりも小さく、また舌片2bの巾寸法は上記ヘッドバンド1の巾広部1dの巾寸法とスリット1cの巾寸法との中間寸法に、さらに上記スリット2cの巾寸法は上記ヘッドバ

ンド1の舌片1bの巾寸法とスリット1cの巾寸法との中間寸法にそれぞれ設定されている。そして、このスライダ2を上記ヘッドバンド1に組み付ける順序は、まず、第4図(A)に示すように上記ヘッドバンド1の舌片1bを上記スライダ2の接合面2e側からそのスリット2c内に、干渉しない姿勢で、つまり上記舌片1bの厚み方向が上記スリット2cの巾方向に略一致するような姿勢で插入し、上記舌片1bがスライダ2の非接合面側に突出したところで、つまり、ヘッドバンド1のくびれ部1aが上記スリット2c内に位置したところでこのヘッドバンド1を所要角度捻り戻し、第4図(B)あるいは第5図に鎖線で示すような姿勢にする。すなわち、この姿勢とは、上記ヘッドバンド1の舌片1bが上記スライダ2のスリット2cの非接合面側端部にスライド可能に係接した姿勢である。なお、図ではスライダ2を上限位置、つまりくびれ部2aが上記スリット1cの端部に当接する位置までスライドさせた状態を示している。次いで、このような状態から

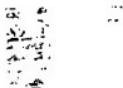
上記スライダ2をその接合面2eが上記ヘッドバンド1の接合面1eに密着する方向へ傾動させることにより、その一端に設けた舌片2bが上記ヘッドバンド1の巾広部1dを通過してとのヘッドバンド1の非接合面側に位置するようとする。この状態を第5図に2点鎖線で示す。しかる後このスライダ2を第5図に実線で示すように下方向へスライドさせて、このスライダ2の舌片2bを上記ヘッドバンド1のスリット1cの非接合面1eに保持せることにより、このスライダ2の上記ヘッドバンド1への組み付けが終了する。なお、組み付け後においてはこのスライダ2と上記ヘッドバンド1の両接合面1e, 2eは両者1, 2の曲率の違いにより互いに弾性的に圧着されており、この両接合面1e, 2eに節度用の凹凸保合部5を設け、上記スライダ2のスライド動作を節度的に行なわせるようにしている。上記凹凸保合部5は、上記ヘッドバンド1の接合面1eにバンド長手方向に所定の間隔をあけて設けた複数の保合凹所5aと、上記スライダ2の接合

面2eに設けられ、上記係合凹所5aと係合する係合突起5bとからなるもので、この係合突起5bおよび係合凹所5aは共にスライダ2およびヘッドバンド1の各製作時に金型によりそれぞれ一体的に形成されるものである。一方、上記カバー3は、皮革等を袋状に形成したもので上記ヘッドバンド1の全部と上記スライダ2のヘッドバンド1との重合部分とを被覆するものであり、その前縫部は上記ヘッドバンド1の舌片1bに固定されている。すなわち、上記舌片1bの中央部、つまり上記スライダ2のスリット2cに對向する部位にピン孔6を穿設するとともに、上記カバー4の上記ピン孔6に對応する部位に取付孔7を穿設し、この取付孔7およびピン孔6に取着ピン8を挿通し、この取着ピン8の頭部に形成した鈎部と上記舌片1bとで上記カバー4の取付孔7の周縫部を挟着固定するようにしてある。また、この取着ピン8の頭部は上記スライダ2のスリット2cを貫通して接合面2e側に突出しており、この突出部にピン抜け止め用の凹リング

10を装着している。そして、上記スライダ2を上方へスライド移動させた時に、このスライダ2のスリット2cの下端部が上記取着ピン8に当接してそのスライド移動が規制され、このスライダ2の舌片2bが上記ヘッドバンド1の巾広部1dに達するのが禁止されるようになっている。換言すれば、この取着ピン8によって、上記スライダ2が組立て順序を逆に辿って第5図に類線で示すような状態になる。つまりヘッドバンド1から外れてしまうのを防止するようしている。一方上記スピーカ4、4は周知な構成のもので、U形金具9、9を介して上記スライダ2、2の各下端部にそれぞれ取着されている。

このような構成のものであれば、従来のものと同様の操作でスライダ2、2をスライド移動させて、ヘッドバンド部の長さを自由に調節することができるのは勿論であり、しかも、ヘッドバンド1とスライダ2とを、上述したようにそれぞれに一体に設けた舌片1b,2bとスリット1c,2cとを互いに係合させ合うことにより連結

するようにしているので部品点数が少なく組み立てが簡単であり、また、ヘッドバンドとスライダとの重合せ部分をねじ等で締付けるようにしたものに比べはるかにその部分を薄型に、かつ軽量にすることができるものである。また、スライダのスライド圧は、ヘッドバンド1とスライダ2の曲率によって決まりで、上記ヘッドバンド1およびスライダ2を金型等でそれぞれ設定された正確な寸法形状に成形しさえすれば、組み上り品のスライド圧にはらつきが生じることなく、均一な製品を得ることができ。また、上記ヘッドバンド1とスライダ2の接合面に凹凸係合部5を設けてるので、上記スライダ2のスライド調節を確実にかつ感触よく行なうことができる。さらに、ヘッドバンド1の舌片1bに取着ピン8を取りし、このストッパー8に、カバー3を固定する機能と、上記スライダ2がヘッドバンド1から外れるのを防止する機能とを同時に持たせることとしているので、この点においても部品点数の削減化および



組立ての簡略化が促進されるものである。

なお、凹凸係合部は前記構成のものに限らず他のものでもよいのは勿論であり、たとえば、ヘッドバンド側に係合突起を設けるとともにスライダ側に係合凹所を設けたようなものでもよい。また、その係合突起および係合凹所の形状も前記のようなものに限らず他のものでもよくたとえば、係合凹所をローレット状の形にし係合突起をそれに係合する突条にしてもよい。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例を示す斜視図、第2図はこの考案の一実施例を示す斜視図、第3図は同実施例の要部を示す斜視図、第4図(A)(B)、第5図は同実施例の組立順序を説明するための説明図、第6図は同実施例の要部を示す断面図である。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 ヘッドバンド | 1a くびれ部 |
| 1b 舌片 | 1c スリット |
| 1d 巾広部 | 2 スライダ |
| 2a くびれ部 | 2b 舌片 |
| 2c スリット | 3 カバー |

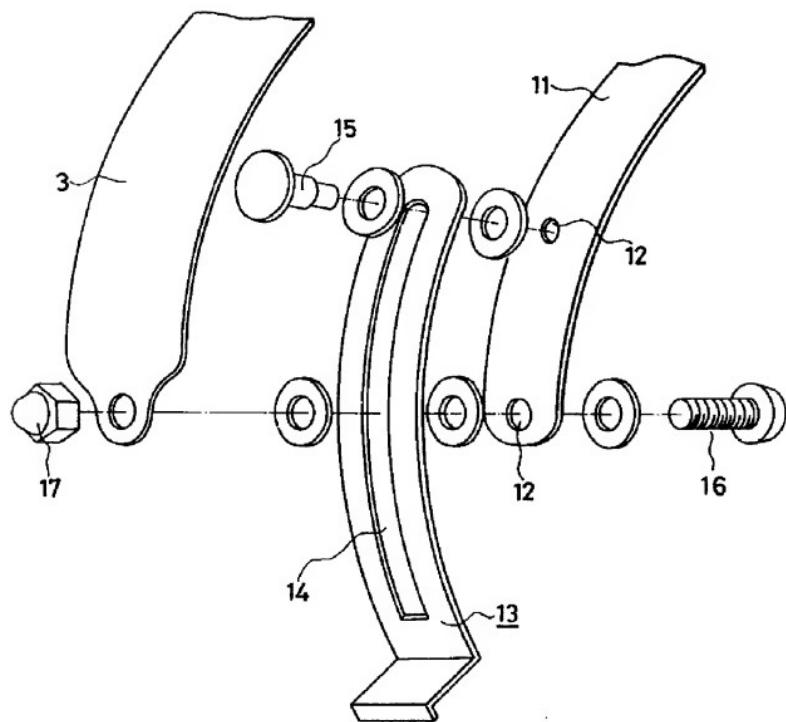
5 凹凸係合部

8 取締 ピン

出 領 人 星電器製造株式会社

代 理 人 アメリカ人 鈴江孝一

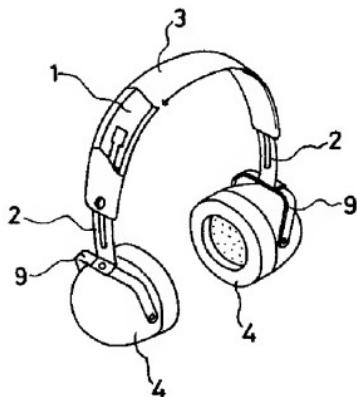
第 1 図



発明人 星電器製造株式会社

143627
代理人 弁理士 鈴江孝一

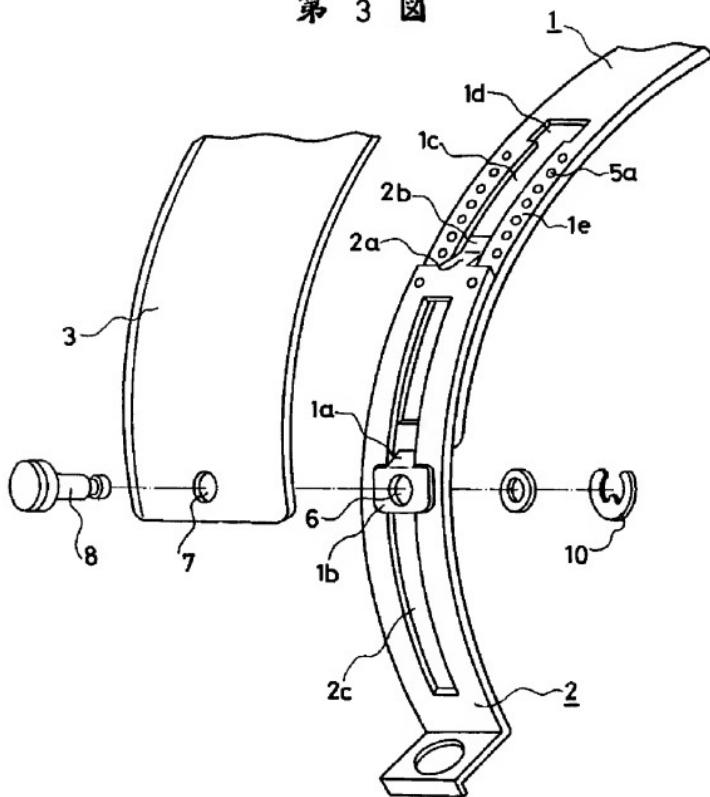
第 2 図



出願人 電器製造株式会社

代理人 フリーラン江幸一

第3図



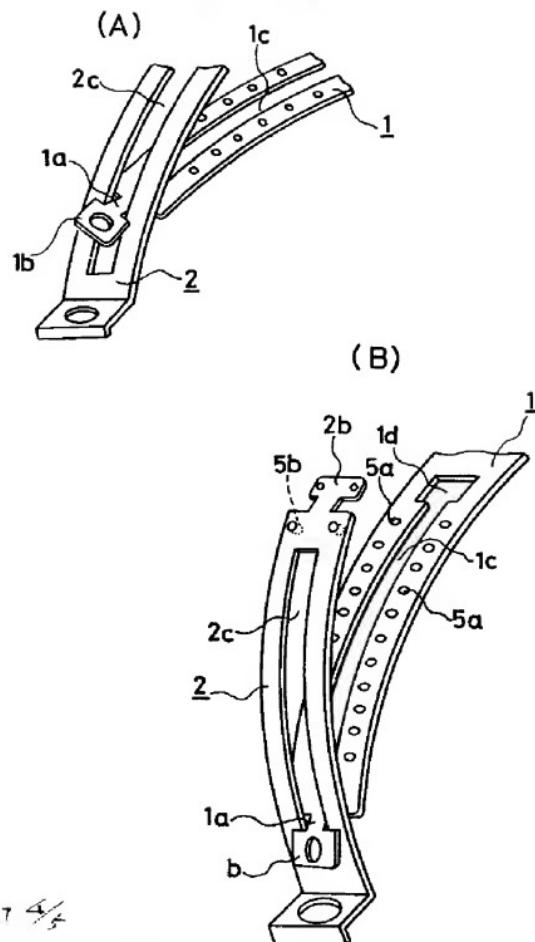
出願人 星電器製造株式会社

143627
34

代理人

弁理士 鈴江孝一

第4図

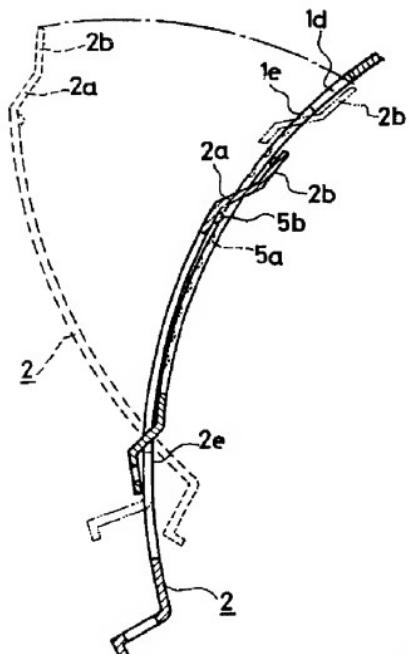


143227 45

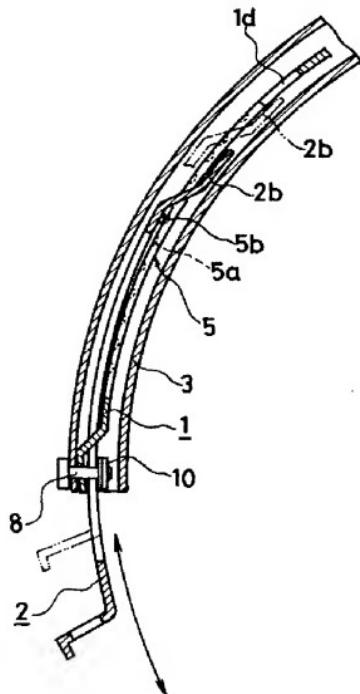
出願人 星電器製造株式会社

代理人 弁理士 館江孝一

第5図



第6図



143627

出願人 電器製造株式会社

代理人 弁理士 鈴江幸一

6. 前記以外の発明者、考案者、出願人、または代理人

(1) 発明者

考案者

(2) 特許出願人

実用新案登録出願人

(3) 代理人

住 所 東京都港区芝西久保桜川町2番地 第17森ビル

〒105 電 話 03(502)3181

氏 名 弁理士(5847) 鈴 江 武 彦



53-143627